

水と地球

「地球は青かった。」一九六四年四月十一日、人類で初めて宇宙に行った宇宙飛行士、ユーレイ・ガガーリンが地球を見たときに言った言葉だ。地球の七割を占める海は青く、「水の惑星」と言えるだろう。そんな大きな面積を占める海だが、どのように水や海はできたのだろうか。

調べてみると、地球が誕生して数億年は岩石の塊で、水のもととなる水素や酸素も岩石の中に閉じこめられており、地殻の熱で岩石が溶かされ、水素と酸素が結合して水ができたとそうだ。そしてその水が水蒸気となって吹き上がり、雨を降らせて海ができた。

私はこのことを知って、それならば地球以外にも水はあるのではないか、他にも地球のような「水の惑星」があるのではないかと思

五條市立五條東中学校 二年

吉田 梓紗

すると、やはり他の星にも水は存在するに分かった。だが、氷、水、水蒸気と色々な形態で存在している。太陽から遠くにある惑星には水があっても寒いので氷として存在していることがある。また、太陽に近い惑星は温度が高いので水蒸気となってしまふ。

そんな中、地球は太陽との距離、地球の質量による重力など、様々な要因が偶然にも重なることで、水がたくさん存在する惑星となったそうだ。水は他の惑星にもあると思ったが、氷などに形を変えて存在しているのが意外で驚いた。

では、もしこの地球から「水」がなくなってしまうと私たち人間や地球に住む動物などの生き物たちはどうなってしまうのか。

水がないと動物も植物も生存することはできない。動物は脱水状態になる。とりわけ人

類は様々な場面で水を使うため日常生活が停止してしまう。植物も育たない状況になるだろう。日光や空気があっても水がなければ枯れてしまうだけだ。すると、緑もなくなる。そして雨も降らなくなってしまう。土地は砂漠のように乾いた場所が増えるだろう。また、海水の働きに酸素の供給と二酸化炭素の吸収もあるため、植物もなくなり地球の二酸化炭素濃度は高くなってしまふ。つまり、水がなくなると地球は生物が住める環境ではなくなってしまうのだ。

こう考えてみると、水が地球を支えているのだと、そのありがたさがよく分かる。今、地球では毎年二十三億トンもの水を使っている。実はこのままでは約六億年後には海の水は枯れてなくなってしまう計算なのだ。六億年後の未来のために……というのは考えにくいかもしれないが、地球の抱える水の問題はそれだけではない。広い地球には水不足で困っている、使える水が手に入らず困っている国や地域、人々が実際に存在する。その人たちは六億年後の未来と同じ苦しみを毎日味わっているのだ。

私たちにできることは何かないのだろうか。まずは私が今回たくさんのことを学んだように「水のありがたさ」を多くの人で考え直さないといけないと思う。すると、水道水を出しっぱなしにして水を無駄にしたり、海や川を汚したりするようなことも減るだろう。地球に水があることは奇跡である。その奇跡をこれからも守り続けていきたい。